



分科会 5 セルフメディケーションと薬剤師の役割

10月7日(日) 13:30～16:00 第6会場(アクトシティ浜松 研修交流センター 2F 音楽工房ホール)

W-05-02

セルフメディケーションにおける薬剤師の役割

わたなべ きんぞう
渡辺 謹三

東京薬科大学薬学部

【はじめに】日本薬剤師会は、一般用医薬品に関する薬剤師の相談対応の事例を収集し、一般用医薬品を生活者に供給する際に、薬剤師が関与することの有用性を検証するための基礎資料を得る目的で、平成23年8月に「平成23年度一般用医薬品の相談対応などに関する調査」を実施した。本調査は「日本薬剤師会サポート薬局制度」の「セルフメディケーション・サポート薬局」970薬局を対象として、調査票を平成23年7月末に送付し、返送期限を8月31日として行った。調査票は「薬局票」と「事例調査票」で構成され、そのうち「薬局票」は2009年6月の改正薬事法施行後の各薬局における一般用医薬品の販売体制などの設問を載せたもので618薬局から返送された。(回収率：63.7%)さらに、このうち433薬局からは後述する1192例(有効回答：1184例)の一般用医薬品販売時の相談事例が「事例調査票」(1事例を1部の事例調査票に記入)に記されて返送された。調査票の作成、調査結果の集計・解析などは日本薬剤師会、一般用医薬品委員会が行った。本発表では、「事例調査票」に記された相談事例の概要と一般用医薬品を販売する際や相談に応じた際に、薬剤師が関与することの有用性が顕著な具体的事例について報告し、今後薬剤師がセルフメディケーション支援で職能を発揮する際に重要と考えられる事項について考察を加える。

【事例調査結果の概要】「事例調査票」では、一般用医薬品(医薬部外品を含む)の購入や相談を目的として来局した顧客からの相談を受けた結果、下記のような事例について回答を求めた。・現在使用中の一般用医薬品の使用中止を遂げた例・一般用医薬品の販売を行わなかった事例・医療機関への受診を勧めた事例・製品名や成分名を指名してきたが、相談応需の後に変更した事例調査対象期間は平成22年9月1日～23年8月31日、記憶が鮮明な例の回答を求めた。相談対象者の性別は、女性約55%、男性約43%、年齢は60代(21%)が最多で、50代(18%)、70代(17%)がそれに続いた。相談対象の薬効群は、外皮用薬(29%)が最も多く、精神神経用薬(解熱鎮痛薬、感冒薬など、17%)、消化器官用薬(15%)がそれに続いた。相談に対する薬剤師の判断は、「一般用医薬品での対応は困難な要件、あるいは不適切な症状」(39%)、「指名医薬品の使用は不適切(医薬品・薬効群指名の場合)」(20%)、「使用中の医薬品の使用は不適切(同一・同効医薬品継続使用の場合)」(10%)などで、その際の対応は「医薬品を販売しなかった」(46%)、「医薬品を販売した」(32%)、「指名医薬品以外を推奨したが買わなかった」(1%)であった。さらに、医薬品を販売しなかった場合に薬剤師は「かかりつけ医への受診勧奨」(48%)、「かかりつけ医以外への受診勧奨・紹介」(41%)を行っていたが、「助言を断られた(何もできなかった)」という事例も2%報告された。さらに、個々の相談事例について「事例の具体的内容」と「その後の転帰」について具体的な記述などを求めた。記述中には、顧客が求める医薬品の効能効果を誤って解釈していることから適切な医薬品を推奨販売した事例、顧客が求める医薬品で発現し得る副作用を回避するべく別の医薬品を推奨販売した事例、顧客が求める医薬品あるいは顧客の訴える症状に対応する医薬品がないことから受診勧奨に至った事例、相談対象となった症状を顧客が過小評価していることから受診勧奨に至った事例など薬剤師の関与によって、より適切なセルフメディケーションや医療機関への受診につながった事例が数多く見られた。発表では、これらの具体的事例について言及し、紹介する。

【今後薬剤師に求められる課題】前述のように、薬局における一般用医薬品の相談応需時における薬剤師の関与が適切なセルフメディケーション支援に極めて有用であると考えられた。しかしながら、その一方で薬剤師がセルフメディケーション支援をより有効に実践し、薬剤師職能としてより広く認知・評価されるためには、1) 薬局基盤として薬局での一般用医薬品ラインナップの充実、2) 顧客からの情報収集能力の向上、3) 薬剤師のフィジカルアセスメント能力の向上、4) 薬剤師が振り分け(トリアージ)した結果を適切に顧客へ説明する能力の向上、5) 一般用医薬品に関する知識の向上、6) セルフメディケーション支援における薬剤師職能の一般消費者に対する普及、啓発、宣伝の必要性、7) セルフメディケーション支援において薬剤師に求められる知識、技能、態度の薬学・薬剤師教育への取込・応用が重要と考えられた。